

囲碁を通じて解明するAI（ディープラーニング）の可能性と限界

～「AI（ディープラーニング）」と「囲碁」と「私たちの未来」～

吉松敏男

「衝撃のディープラーニング」です。2016年3月「アルファ碁」が元世界チャンピオンのイ・セドル九段（韓国）を4勝1敗で破りました。1年前の出来事です。その後さまざまな分野で、「AI」、特に「ディープラーニング」が語られるようになりました。私たちの未来はどうなっていくのでしょうか。「ディープラーニング」の思考(?)方法を、この「アルファ碁」を通じて解明するとともに、今後私たちの世界がどうなっていくのか考えてみましょう。

思考体系

～第3編 意識・無意識～

飯田 征一郎

「思考」の重要性が強調されることもあるが、企業においては、思考よりやる気や行動が強調され、学問軽視の風潮も根強い。また「思考」とは、具体的には何なのか、どう思考すればよいのかなど明確にされていない。そこで、思考全般に関し一連の所論で、網羅的にかつ賢者の経験と脳科学など学問的に証明されていることを結び付けて解説している。「思考」を「創造」と分ける識者もいるが本論では、創造力も思考力に含まれると考え、(狭義の)前者をA

思考 (Analytical 思考)、後者をC思考 (Creative 思考) と呼ぶ。A思考について、2015年刊行の「MTC Aジャーナル」No12に、C思考については、16年刊行の同誌No13に詳述した。本論では意識・無意識の機能・活用方法などを中心に詳述する。

続、もの造りの「品質づくり込み力」の今を見る
～ 我が国の製品品質の劣化を憂えて ～
宇多小路勝

かつて製品品質の高さを世界から認められてきた日本企業の製品品質が劣化していると指摘され、品質神話は過去のもののようだ。自動車産業のリコールも絶えないから故なきことではない。

学校図書館と社会
～ 社会と共に変化する学校 ～

大平 睦美

変化の激しいこれからの社会を生きるために、学校教育では、児童生徒に確かな学力、豊かな心、健やかな体をバランスよく育てることが求められ 学校では、これまでのように教えることを中心とした授業から、主体的な学習の姿勢を身につけさせることが重要となる。学校は教える組織から、学ぶ組織へとの変化が必要である。情報化社会の現在では、主体的な学習に情報活用能力の育成が不可欠であり、学校図書館は情報を扱う場としての活用が期待できると考

えている。本文では、筆者の研究テーマである学校図書館から、教育と社会について考えたい。

建設産業の人材の確保と育成
～タイル工育成10ヶ年事業への参画～

長谷 利男

建設産業は、3K(汚い・きつい・危険)+2K(休日が少ない、給与が低い)の5K職場のイメージからの脱却、若年層の確保と育成が喫緊の課題となっている。

タイル工の専門工事会社において失われた4年間に高齢化の進展と若手入職者がゼロの環境下、高校卒の新規確保と育成を図る「タイル工育成10ヶ年事業」に専門家として参画したプロセス・活動を述べる。



「組織の罠」 ～アージリスが追い求めた課題～

神保 雅明

アメリカで組織行動論の大御所と言われたアージリスの最後の著書「組織の罠=人間行動の現実=」 Organizational Traps : Leadership,Culture,Organizational design が邦訳された。

「罠」とは恐ろしい表現だが、重要な意味を持っている。アージリスは「罠」に畢生の思い・研究成果を込めたが、人間の本性を追い詰めつつも、ヨリ高次の解決策を次世代に委ねる形で逝ってしまった。

